十勝における地名調査の歩み

田沼　　穣

前松前藩時代（～1799年）

西　　暦	和　年　号	お　も　な　記　録（但し、紀行文は除く）
1644頃	正保元頃	**「正保日本図」** エルモ・トカチの記入あり、トカチの最古の記録か？
1700	元禄13	**「元禄御国絵図」** とかち・おんべつ・とまり（広尾か？）の記入あり
1700	元禄13	**「松前嶋郷帳」**（元禄郷帳）
1785	天明５	**「天明己巳校正蝦夷図」** 十勝川上流、利別川の内陸路が描かれていると言う（高倉新一郎）
1798	寛政10	**「松平忠明・蝦夷踏査開拓見積地図」** 勇払屯田八王子同心（原新助の手配下）皆川周太夫は十勝川より日高山脈を越え、日高沙留川筋に通ずる道路開削計画をたてるため９月13日十勝国大津より十勝川筋をさかのぼり16泊してパラトブトに至る。

前幕府直轄領時代（1799～1821年）

西　　暦	和　年　号	お　も　な　記　録（但し、紀行文は除く）
1808	文化５	秦檍丸（檍麻呂、村上島之丞）**「東蝦夷地名考」** アイヌ語地名解をまとめて書いた本としては最古か（山田秀三）。伊勢の浪士で後に幕吏となる。地理学に通じ地図がうまい。松平定信が寛政10年近藤重蔵に加えて蝦夷地を探査させた。その後、数回往復する。「蝦夷島奇観」など著作が多い。
1808	文化５	**「十勝場所大概書」**
1809	文化６	近藤重蔵**「蝦夷地図式（蝦夷及樺太ノ図）」** 海岸に詳しく、十勝川の内陸も少し記入がある。

目　次

十勝における地名調査の歩み……田沼　穣……2
十勝オコッペ遺跡について……後藤　秀彦・佐藤　訓敏……5

表紙写真説明：明治36年12月開業の浦幌駅。この駅の開業に伴って、戸長役場のあった旧生剛市街地は一瞬にして寂れ、この駅前周辺に街並みが形成された。この写真は、開業時のものであるが、同時に厚内駅も開業している。（後藤秀彦）

松前藩復領時代（1821～1854年）

西　　暦	和　年　号	お　も　な　記　録（但し、紀行文は除く）
1824	文政７	上原熊次郎「**蝦夷地名考並里程記**」
1832～34	天保３～５	今井八九郎「**東西蝦夷地大河之図**」 松前藩の測量家、間宮林蔵の門弟。大津川、十勝川、利別川筋の夷屋と里程あり。

後幕府直轄領時代（1854～1868年）

西　　暦	和　年　号	お　も　な　記　録（但し、紀行文は除く）
1854	嘉永７	藤田良作「**蝦夷闔境輿地全図**」 北海道、樺太、千島列島を含み経緯度を有す。勤番所、運上屋、番屋、道路、舟路などを記す。
？	？	「**蝦夷地名解**」（**松前東西蝦夷地場所之地名荒増？里数休泊等大概**） 筆者、年代不詳。松浦武四郎の旅行より若干前の頃の書らしい(山田秀三)。広尾、当縁、勇洞、長節、大津、十勝という漢字を使用す。
1856	安政３	松浦武四郎「**竹四郎廻浦日記**」（巻の26） 幕府御雇として、再度の蝦夷地幕府直領化に当り、蝦夷地請取役に随行し、主として海岸線を一周した報文日記のうち「クスリ領センポウシよりトカチ・ホロイヅミ両領境ビタタヌンケまで」
1858	安政５	前田健助「**東蝦夷地名解**」（**蝦夷地名真字相定候ニ付奉伺候書付の一部**）
1858	安政５	松浦武四郎「**戊午日誌**」 ６巻　登加智留宇知之誌　巻の四（佐幌～十勝川上岩松ダム～十勝川下り・芽室） ７巻　登加智留宇知之誌　巻の五（芽室～帯広～十勝川下り～大津・釧路着） 47巻　辺留府称誌（広尾～歴舟川上り～大樹～元札内） 48巻　報十勝誌　巻の一（元札内～戸蔦～上美生～芽室、札内川すじ聞き書き） 49巻　報十勝誌　巻の二（芽室～然別川筋～音更川筋～更別川筋、止若） 50巻　報十勝誌　巻の三（止若～池田町、利別川上聞取り書き） 51巻　報十勝誌　巻の四（池田町～十勝川下り～浦幌川筋聞取り～十勝川口）
1859	安政６	松浦武四郎「**東西蝦夷山川地理取調図**」 26枚の北海道・南千島の分図、経緯度各１度をもって１枚とし、輪郭は伊能・間宮の沿海実測図による内陸の河川、湖沼、山名と地名は詳細、凡例には索引図と案内アイヌ名簿をのせる。
1861	文久元	松浦武四郎「**十勝日誌**」 戊午、石狩川より十勝越えの摘要
1864	元治元	松浦武四郎「**東蝦夷日誌**」六編 幌泉より十勝まで
1865	慶応元	松浦武四郎「**東蝦夷日誌**」七編 十勝より久摺まで

明治時代（1868～1912年）

（ア）開拓使時代（1869～1882年）

西　　暦	和　年　号	お　も　な　記　録（但し、紀行文は除く）
1869	明治２	松浦武四郎「**北海道々国郡名撰定上書**」 広尾（ヒロヲ）・当縁（トウブチ）・大津（オホツ）、中川・河東・河西・十勝の７郡。

西　　暦	和　年　号	おもな記録（但し、紀行文は除く）
1871	明治4	和泉盛「**蝦夷の燈**」
1872	明治5	一瀬長春「**日高・十勝・石狩三州標木建設跋渉図**」 測量師、沙流川上流から十勝川上流にかけての径歴図。川、土人所在、野宿、泊所の記入あり。帯広太歩など和名地名多し。
?	?	「**蝦夷各地跋渉絵図**」（一瀬長春作か？） 各郡ごとに区画し、多くの地名、平原名、山名、土人家、村数、戸数の記入あり。
?	?	「**十勝国全図**」（筆者、成立年代不明） 帯広村あり。
1873	明治6	「**浦河支庁管内十勝国各郡村一覧表**」（開拓使事業報告　明治18年） 荆苞村、芽室、下帯広、羽帯村、上帯広村、幸震村、伏古別村、戸蔦村、セフンマカン別村、ムエメンケ村、美波色村、ウレカレフ村（河西郡）となる。
?	?	「**十勝国各郡区画図**」（7図・一瀬朝春作か？）

（イ）三県一局時代（1882～1886年）　　**（ウ）北海道庁時代**（1886～1912年）

西　　暦	和　年　号	おもな記録（但し、紀行文は除く）
1886頃	明治19頃	白野夏雲「**蝦夷地名録**」（三冊） 静岡藩十勝詰開業方御用取扱、のち札幌神社宮司。 ㈡函館より十勝方面に至る　91丁2,340カ所 ㈢宗谷より十勝に至る　63丁1,560カ所
1886頃	明治19頃	白野夏雲「**蝦夷地名解**」 松前東西蝦夷地場所ノ地名荒増里数休泊等大概 東西蝦夷地島々地名荒増和解並週廻数里等大概
1891	明治24	永田方正「**北海道蝦夷語地名解**」 広尾郡（41）、当緑郡（19）、十勝郡（65）、中川郡（119）、河東郡（36）、河西郡（65）、上川郡（29）　合計374カ所
1891	明治24	北海道庁殖民課「**北海道殖民地撰定報文**」 ヲビルビルップ原野、ウエカリップ原野など。
1891	明治24	北海道庁「**北海道地質報文**」
1891～	明治24～	陸地測量部「**輯製20万分1図**」（未刊か？）
1890～	明治23～	北海道庁「**20万分1北海道実測切図**」
1896	明治29～	陸地測量部「**仮製5万分1北海道地形図**」
1899	明治32	「**北海道郡区町村区画**」修正表 一・二級町村制施行後の町村の行政区画。
1900	明治33	北海道庁殖民部「**北海道殖民状況報文　十勝国**」
1901	明治34	北海道庁拓殖課「**北海道殖民地区画図**」
1902	明治35	吉田東伍「**大日本地名辞典**」
1906	明治39	「**北海道行政区画**」
1907	明治40	酒井章太郎「**十勝史**」

大正時代（1912～1926年）

西　　暦	和　年　号	おもな記録（但し、紀行文は除く）
1914	大正3	安田巖城「**十勝地名解**」

（帯広大谷高校教諭）